

# 平成26年度 矢掛町立矢掛中学校学校評価書

校長 渡邊 求

本校のミッション
今日より輝く明日のために
<ul style="list-style-type: none"> <li>目的をもって登校できる</li> <li>確かな学力を身につける</li> </ul>

学級数	11	学級	児童(生徒・園児)数	317	人
職員数	31	人	家庭数	289	戸
学校関係者評価委員	榎崎 裕志 (矢掛町人権擁護委員・元中学校長) 安藤 壽司 (町費校務支援員・元小学校長) 堀 賢一 (矢掛中学校PTA) 古城賀津子 (地域支援コーディネーター) 岩崎 恭子 (家庭環境改善サポーター) 笹井美帆子 (山田公民館主事) 諏訪 英広 (川崎医療福祉大学) 高木 亮 (就実大学) 川上 公一 (県立矢掛高等学校長)				

※生徒数は5月1日現在

A 成果をあげている B ほぼ成果をあげている C あまり成果をあげていない D 成果をあげていない

領域	中期目標	単年度目標	具体的計画	達成基準	自己評価	評価
1	確かな学力	・学力向上を目指した授業改善を図る。 ・学力が確実に身につくようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の授業で、電子黒板や指導用デジタル教科書等のICTを効果的に活用する。</li> <li>学び合い学習を基本とし、ペアやグループ活動を取り入れた授業を展開する。</li> <li>各教科の授業で、自ら進んで考えを述べることができるよう支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用し、わかりやすい授業に努めている教員が80%以上いる。</li> <li>90%以上の生徒がペアやグループで学習する場面があると答えている。</li> <li>60%以上の生徒が、授業中に自ら進んで考えを発表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板などのICTを効果的に活用した授業を行ったと回答した教員は79%であった。ほとんどの教科で活用できているが、十分に活用できていない教員もいるので、活用の仕方ノウハウを共有していく必要がある。</li> <li>アンケートの「授業でペアやグループで学習する場面がある」と95%の生徒が「そう思う・どちらか」というとそう思うと回答している。ペアやグループでの学習活動が、年々増えてきている。</li> <li>「自分の意見や考えを伝える場がある」と答えている生徒は87%いるが、「授業中は、自分の意見や考えをすすんで発表している」生徒は45%しかいない。自分の意見を進んで発表できていない。</li> <li>全国学力学習状況調査(3年)、標準学力調査(2年)、岡山県学力学習状況調査(1年)とも全国平均・岡山県平均を下回っている。基礎的な学力と発展的な問題の正答率が低く、特にB問題では無回答率が高かった。</li> </ul>	B
2	確かな学力	・家庭学習と自学自習の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>帰りの会でドリル学習(夕学)を行うことで、基礎学力の向上と自学自習の習慣化を図る。</li> <li>夏休みの学習会へ目的をもって参加するように促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>80%以上の生徒が、丁寧に課題やドリル学習に取り組んでいる。</li> <li>100人以上の生徒が夏休みの学習会に参加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夕学でのドリル学習には、まじめに取り組んでいると89.2%の生徒が回答している。昨年の2学期から行ってきた夕学が定着してきている。</li> <li>アンケートでは、「学校の宿題は、家できちんと取り組んでいる」と答えている生徒は72%いるが、年々減少している。岡山県学力学習調査や全国学力学習状況調査でも家庭学習の習慣がつかっていないことがわかる。3年生では、授業以外で「全くしない」生徒が18%、30分以下が34%と半分以上の生徒が家庭学習に取り組んでいない。</li> <li>夏休みの学習会に6日間、延べ136人の生徒が参加し、各自がワークなどの課題に取り組めた。</li> </ul>	C
3	支え合う生徒	・良好な学級の雰囲気づくりに努め、生徒の自己肯定感を高める。 ・支え合える、認め合える、繋がり合える集団づくりをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学び合いを通して、共につながり居場所のある学級づくりに取り組む。</li> <li>授業や学校行事で考えを述べ合ったり、互いを認め合ったりする場面を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月のQUアンケート結果よりも学級生活に満足している生徒が増えている。</li> <li>80%以上の生徒が「意見を述べる場面がある」と回答している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>QUアンケートを行い、クラスの問題を見つける補助としている。学級生活満足度は5月の55%から7月の57%に増えているが、3年生で2%下がった。非承認群が全国平均の15%より20%(全校平均)と高くなっている。</li> <li>アンケートでは86%の生徒が「授業では、自分の意見や考えを伝える場面がある。」と答えている。「学び合い学習」を通じて、意見や考えを述べる場面は多く、設定されている。</li> </ul>	B
4	支え合う生徒	・社会的実践力が身につくようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会や専門委員会の活動と連携し、矢掛中学校三つの誇りが実践できるようにする。</li> <li>生徒が主体的に地域の活動に参加するよう支援し、参加の状況を積極的に公開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>80%以上の生徒が、矢掛中学校三つの誇りを意識して実践しようとしている。</li> <li>50%以上の生徒が地域の活動に参加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に対するアンケートでは「掃除ができる」88.9%、「あいさつができる」89.6%、「時間を守る」93%で、全項目で基準値を達成できているが、昨年と比較すると、どの項目もやや少ない回答であった。</li> <li>夏休みのボランティア体験に74名の生徒が自主的に参加し、意欲的に活動することができた。</li> <li>町合併60周年記念行事をはじめ、町民体育大会・流しびな夏祭り・公民館主催のボランティア活動に延べ248名の生徒が意欲的に地域の活動に参加している。</li> </ul>	A
5	生徒の支援	・学校に適切にくい生徒への支援を充実する。 ・学校に適切できるように個別の支援を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校の未然防止、小中連携の効果的な取組を行うとともに、スクールカウンセラーや外部機関との連携を一層密にする。</li> <li>生徒指導上の課題を学校アドバイザーの活用や関係機関との連携を密に取りながら、落ち着いた学校づくりに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不適応傾向のある生徒について、専門家と連携して支援方針を定め、状況に応じて他機関の援助を得ている。</li> <li>生徒指導の方針を徹底し、学校アドバイザーや関係機関と連携をとり、生徒指導上の課題のある生徒に対応していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒と保護者の大半(85%～87%)は「学校へ行くことが楽しいと思っている」が、そう思っていない生徒もあり、家庭・本人・学校との密な連携を図り、登校意欲を高めるように努めている。</li> <li>学校カウンセラーとの連携や学期ごとの教育相談、機会を見つけての悩みを抱えている生徒との面談などで、生徒の状況に応じて適切な支援をしている。また、家庭改善環境サポーターや支援員との協力、ひまわりの家との連携なども再登校に効果をあげていると考えられる。個別のケース会議も適宜実施されている。</li> <li>規範意識が低く、ルールやマナーを守ることができない生徒もいるが、学校アドバイザーと指導方法について検討し、必要に応じて関係機関と連携を図ることにより、徐々にではあるが落ち着きつつある。また、1年生では授業エスケープが見られたが、学年団を中心に粘り強く関わることで、落ち着いた学校生活を送ることができるようになった。</li> </ul>	B
6	生徒の支援	・特別支援教育の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援コーディネーターを中心に教職員・支援員が密に情報交換をし、個別の支援を充実させる。</li> <li>関係機関、専門家、保護者と連携し、個別支援を充実する。</li> <li>特別支援教育に関する校内研修を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別な支援を要する生徒が安心して充実した学校生活を送っている。</li> <li>学校、家庭、地域で支援方針を共有し、一貫した支援を行っている。</li> <li>関係機関と連携し、事例毎により適切な支援方針を定め、支援している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知的障害学級に5名、自閉・情緒障害学級に8名の生徒が在籍しており、各学級担任(特別支援コーディネーターをかねる)、特別支援教育支援員4名を配し、それぞれに応じた支援を行っている。自閉・情緒障害学級の生徒は情緒的に不安定で、互いの発言や行動によって感情のコントロールができない時があり、支援が必要である。</li> <li>通常学級に在籍する生徒の中に発達障害または発達障害の疑いのある生徒が複数見られ、関係諸機関とのケース会議、専門家の助言等を得て指導を行っている。また、アセスメントシートの活用を図り、特別支援教育の視点から授業においても支援を行っている。</li> <li>特別支援学級に在籍の3年生については、自立支援とともに進路保障について保護者や関係機関と連携を取りながら、一貫した指導を行っている。</li> </ul>	B

## 分析・改善策

<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教科書や電子黒板を取り入れた授業は行っているが、効果的・継続的に活用していくには、活用の仕方やデジタル教科書の研修をすすめていく必要がある。</li> <li>全国学力学習状況調査や岡山県学力学習状況調査の結果を受けて、「学び合い学習」によるペアやグループでの活動を多く取り入れ、表現力の育成を図り、帰りの会で基礎的な問題のドリル学習や全国学力テストの問題を行った。授業では発展問題を取り入れ、読解力を高め、活用できるようにしていきたい。</li> <li>家庭学習の習慣づくりが大きな課題になっている。取り組みとしては「家庭学習の手引き」の活用、自学自習ノートづくり、家庭での生活の見直し(プランニング作り)などの指導を行い、家庭とも協力して学習習慣の定着をめざす。</li> <li>QUアンケートアンケートは学級の満足度を図る指標としては有効だが、学級の所属感や承認度は学校行事や学級活動を通じて向上させていくようにしたい。</li> <li>夏休みボランティア体験は昨年までの参加人数(192名)より大幅に減少したが、これは募集形式の変更や公民館活動へのボランティアとして参加する生徒が増えたため、全体としては延べ322名で全校生徒より多くなっている。</li> <li>矢掛中学校の3つの誇り、「あいさつができる」「掃除ができる」「時間を守る」は生徒会を中心に意識的に活動しているが、普段の生活からきちんとできるように賞賛しながら指導していきたい。</li> <li>中1ギャップの克服のために年2回の中学校体験授業を行っている。また、相談室の充実や適応指導学級「ひまわりの家」とも連携を図ることで、不登校の予防に努めている。</li> <li>規範意識が低く、ルールやマナーを守ることができない生徒については、根気強くかわることで、徐々に改善している。心配された他学年への影響もほとんどなく、入学時より授業エスケープをしていた1年生数名も落ち着いたことから、次年度に向けては、ルールやマナーを守る指導を徹底するとともに、達成感や自己有用感をもつことができるような取組を行いたい。</li> <li>特別支援学級に在籍する生徒の数も増加しており、通常学級に在籍する生徒の中にも個別に支援を必要としている生徒が複数見られる。これらの改善のためには、なお一層の人的支援の充実が必要となっている。</li> </ul>
--

## 学校関係者評価

<p>1. 確かな学力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校はPTAと連携して家庭学習の習慣づくりのために様々な取り組みを行っている。また、学校通信等で学力向上に向けた取り組み内容(授業改善、補充学習等)を積極的に発信している。</li> <li>家庭学習の取り組みについては、家庭の事情が異なるため、個別の指導でアドバイスすることも効果的であると思われる。</li> <li>ICTを活用した授業、少人数指導、グループ学習などの指導法の改善や夕学の取り組みなど、学力向上への取り組みがなされており、今後の継続を期待したい。</li> <li>学力向上のためには、「生徒の意欲・やる気」と「教員の指導力」が両輪となる。「生徒の意欲・やる気」は「分かった」「できた」という喜びや自信と「〜になりたい」という目的意識を持つことが大切であり、そのためには、先生が「認める」「励ます」「やり方を示す」ことが重要だと考えられる。「教員の指導力」は、指導法、指導技術だけではなく、「生徒に活動の場を与える」「先生が自分の思いを表出する」ことも大切であろう。</li> </ul> <p>2. 支え合う生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ペア学習やグループ学習は学力向上のみならず、生徒同士、生徒と教員の信頼関係の向上に有効な手法と思われる。</li> <li>生徒アンケートやQUテスト等で生徒の実態を把握するとともに、教育相談等で個別の対応を行っている。ほとんどの生徒が「相談できる友達がいる」と答えていることは日頃の指導の成果だと思われる。</li> <li>生徒同士で競い合うような活動を適宜取り入れることも効果的であると思われる。</li> <li>本年度も学校行事やボランティア活動等で生徒の活躍する姿が多く見られた。今後も生徒の自己肯定感を高める取り組みや学校生活での満足感が得られるような指導や支援を継続する必要がある。</li> </ul> <p>3. 生徒の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>規範意識(ルールやマナー)を身に付けさせるために生徒自らが考え実践する機会・場面を設けている。</li> <li>生徒への直接的な指導は当然だが、支えている保護者に対する働きかけもこれまで同様大切にしてほしい。特に、不登校傾向の生徒や特別な支援を要する生徒の保護者に対しては、担任だけでなく、学校全体で関わる体制を今後も継続する必要がある。</li> <li>今まで授業に出席できにくかった数名の生徒も授業に出席する時間が増えている等の指導の成果が見られる。今後も指導の徹底が図られるよう、指導の体制や内容を充実する必要がある。</li> </ul> <p>4. 総論(全体として)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の様子を中心とする学校全体の空気(雰囲気)が非常によくなっている。先生方が生徒の実態を的確に把握し、実態を踏まえた手立てをとっていることが分かる。今後、学校全体でさらに情報共有を密にしなが、生徒個々の目標に向けて具体的な指導を進めることによって、ますます成果となって表れることを期待したい。</li> <li>生徒や保護者にとって「あの先生なら」と思える先生が学校にいることはとても幸せなことであると思われる。</li> <li>保護者アンケートの実施時にアンケートのねらいをより明確に示すことによって、保護者の意識の啓発につながると思われる。また、集計結果及びいくつかの自由記述に対する回答を報告した方が良いと思われる。</li> <li>先生方が元気で前向きな毎日を送っていることが一番大切である。</li> </ul> <p>5. 設置者等への要望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会からの要望書に示された内容について、生徒の学習・生活環境を維持・向上させる施設・設備面(危険箇所の修繕、A1学級への仕切りの設置など)や人事面(特別支援教育に係る教員の加配・特別教育支援員の継続と増員、習熟度別少人数指導のための教員の配置など)での手厚い支援をお願いしたい。</li> </ul>
--